




京都教区時報



京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)
京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075-211-3025
FAX 075-211-3041
honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2頁 2017年 病者・高齢者訪問講座
第2回『人と出会い 自分と出会う』-傾聴- 中瀬 真弓氏

3頁 2017年 教区中学生広島平和巡礼

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。
TEL・FAX 079-431-8601

聖性への道のり

7月30日(日)〜8月1日(火)に、三重北部ブロック教会学校主催の練成会がありました。テーマは「ユスト高山右近にならう(聖性への道のり)」でした。初めに、「聖人とは、なんですか?」を考えました。次に、日本の殉教者として、パウロ三木を含む26聖人殉教者、そして、高山右近の生涯について学びました。最後に、「私たちと聖人」というテーマで、「わたしは、なにをしなければならぬか」「自分が高山右近だったら…」について考えました。子どもたちは、高山右近の生涯については、感銘を受けましたが、自分は何にをしなければならぬかまでは、考えられませんでした。

高山右近は、特別な方と誤ってしまふと、なかなか、自分だったらどうするかと考えにくいですが、福者ペトロ岐部司祭と187殉教者のように、普通の信徒が殉教者になっていったことを考えると、私たちも、イエスが示された福音的価値観にもとづいて生きようとする、一般の価値観とぶつかり、困難を感じることもあると思います。福音的価値観にもとづいて生きるこそ、聖性への道のりなのです。

京都教区広報委員会
担当司祭 瀧野正三郎



福者ペトロ岐部司祭と
187殉教者
(2008年11月 列福)



日本26聖人殉教者
(1862年6月 列聖)



福者ユスト
高山右近殉教者
(2017年2月 列福)



2017年 病者・高齢者訪問講座

第2回『人と出会い 自分と出会う』

— 傾聴 —



講師 中瀬真弓氏

2017年度、第2回「病者・高齢者訪問講座」は、昨年度に続き、京都いのちの電話の事務局長で、ロゴセラピストである中瀬真弓氏を講師にお招きし、表題のテーマで行いました。第1回講座「聖書におけるいやし」を受けて、今回は、実際に「病者・高齢者訪問」を行うための実践編として、前半は「傾聴」についての講話、後半は、体験学習（ワーク）を通して、より具体的な内容を深めました。以下は、中瀬氏の主な講話内容です。

第1回講座で、一場師が話されたように、聖書に描かれているイエスは、「全人的」に人と関わり、一人ひとりを大切にされました。私たちは、信仰者として、



イエスのように全人的に人と関わることを目標に、決断と行動の体験を積み重ねていくことが大切です。

「傾聴」とは、まさに全人的、つまり、人をあらゆる側面から

捉える行動です。「相手の話に耳を傾け、そのあるがままを受け止めよう」として、言葉の意味だけではなく、その背後にある気持ちも聴く」ことです。相手の存在全体を素直に受け取り、イメージしながら言葉の背後にある気持ちを思い描くことです。イメージとは思い込みではありません。「わたしから見えるあなたは、決してあなたそのものではない」ことを前提に、相手の軌跡を尊重し、全人的に大切にしようとすることです。

「安心できる場で自由に親密に共に過ごす」ことが、人を全人的に大切にすることを可能にします。「病者・高齢者訪問」の場合は、訪問する人がその場をつくります。その場を構成する、「傾聴」

と「応答」と「質問」の3つの技法を適切に活用しながら、相手の気持ちを素直に受け止め、理解しようとするプロセスの中で、相手も、「自分の気持ちをわかってもらえた」と実感し、自分が話す言葉の後ろにある自分自身の気持ちに気付いていけるものです。

人は、他者と出会い、関わっていくことで、「生きている」ということを実感し、自分自身になっていく存在です。他者は自分とは違う存在であるからこそ、過剰の期待を持たないで、一〇〇%伝えきれない、わかり合えない現状を受け入れ、それでも、ほどよく自分の存在を他者に開いていくことによって、お互いに「つながり感」を持ってた時、私たちは「いのちのつながり」の実感を持つてるのです。



「傾聴」は、人と関わり、つながる道具・工夫にすぎませんが、寄り添い傾聴することによって、この実感を互いに味わ

うことが出来たら良いと思うのです。後半のワークでは、3人のチームで、①勇気をもって、自分の価値観を伝えること、②思いこまず素直に他者の話を聴くこと、③自分と他者の価値観の違いに気付き、その違いそのものを認めることという3つのポイントで、違う価値観の他人の話を評価せずに聴く、そのままを受け取れることを学習しました。

福音宣教企画室



8月5日から7日にかけて、第34回中学生広島平和巡礼が行なわれました。今年のテーマは、「平和と闘争」(へいわピョンファ)で、京都教区から22名、済州教区から21名の中学生が参加して、被爆証言拝聴、平和行進、平和ミサ、投下時間に相生橋で黙祷、平和記念資料館見学、分かち合い、とうろう流し見学など、平和について考える貴重な体験の時を過ごしました。

広島巡礼に行った

唐崎教会 1年 塩月 淳貴

ぼくが心に残ったことは三つあります。一つ目は観音町教会で被爆者証言を聞いたことです。被爆者の朴さんの話を聞いてすごく心が痛かったです。二度と戦争をしてはいけななと思いました。この話を聞いて次の人に伝承していきたいです。

二つ目は、平和記念資料館に行ったことです。資料館の中には、とけたガラスビンやカワラなどがあって原爆の強さや恐ろしさを感じました。あと、平和公園内には、慰霊碑があって原爆でいっばい人が亡くなっていたと感じました。慰霊碑の前で黙とうをしたとき悲しい気持ちになりました。



三つ目は、平和行進です。みんなが歌を歌いながら歩いたこと

とが楽しかったです。なぜなら、みんなと歌を歌ってみんなの心が一つになったと感じたからです。他にも感じたことはあったけどこの三つが心に残りました。ぼくは、平和のためにできることを考えました。それは、友達などと仲良くしたり、募金などしたらちょっとだけ平和になると思います。

この広島巡礼全体を通してぼくは、たくさんの方がたった一つの爆弾で亡くなったことがとても悲しかったです。だからぼくは、3日間で学んだことをほかの人に伝えていきたいです。この3日間は、ぼくにとっても心に残った3日間でした。広島巡礼に来てよかったです。この機会を与えてもらったことに感謝します。

最後の広島平和巡礼

高野教会 3年 河合 理菜

私は、今回で三度目の広島平和巡礼でした。二度目までの事を思い出しながらも、初めて知り学ぶことも多く、充実した三日間を過ごすことができました。今回、平和記念資料館がリニューアル



分がち合いは、通訳が入りながら済州教区の中学生と一緒に「戦争が無い今は平和なのか」「平和にするには、維持するには何が必要か」について分かち合いました。

戦争が無ければ平和だ。という意見は少なかったですが、「戦争は起こってほしくない」気持ちはみんな同じでした。戦争だけでなく身近ないざこざの発端は、とても小さく些細なことでした。その些細な問題を無くすためには、相手とのコミュニケーションを取ることが、一つしかないものは共有することが大切だと考えました。

私が思いつかない意見を沢山聞くこともできて、平和に対する思い、気持ちが増しました。

三度、広島平和巡礼に参加して、平和に対する考えが深まり、友達も増えました。参加することが出来て本当に良かったです。3年間、ありがとうございました。

広島平和巡礼に行つて

山科教会 2年 西平 瑛咲

私は、この巡礼の中で、被爆者の「朴南珠さん」の話を聞いて、戦争前後の時代は、苦労がたくさんあったんだな、と思いました。その中でも一番心に残っていたのは、朴さんが、お母さんに三回泣いて、家にある大切な器を学校へ持って



いきたい。とたのむ所です。朴さんは、その時の事を「非国民だと思われたくない。」と語っていました。私は、それを聞いた時、まだ小さいのに、他の人の目を気にし

て、大事な物を持っていったりするの、朴さんにとっても、その親にとってもすごくつらい思いをしたんだろうな、と思いました。被爆証言を語れる人は今は少ししかないのです、そんな体験を大切に

して、ずっと覚えておこうと思いました。

平和記念資料館に行き、遺品などを見て、原爆の怖さを知って、人間はすごく

怖い事や恐ろしい事が出来るんだな、と

思つて、すごくびっくりしました。

この二つの体験や、分かち合いなどで、

戦争や原爆は、本当にたくさん人の命

が失われるし、良い思いをする人はあま

りないと思うので、今すぐ無くしたい

と思いました。本当の平和を実現出来る

日はまだまだかも知れないけれど、今回



6日の朝(原子爆弾投下日)今年一番の暑さだった。この日も朝から空襲警報が出ていたが解除された。今日もB29はひやかしに来たと軽い気持ちでいた

例えば、「8月6日の朝(原子爆弾投下日)今年一番の暑さだった。この日も朝から空襲警報が出ていたが解除された。今日もB29はひやかしに来たと軽い気持ちでいた」といふ詩の中、私と同じ年ぐらいの子もいたと思います。その子でも辛い思いをしたのに、私は、辛いことは嫌でしたくないので、逃げてしまいます。なので、がまんしないといけない時は、がまんしないといけないと思います。

私は、今回とても貴重なことを聞かせてもらい、見せてもらいました。だからたくさんの人に伝えたいです。たくさんの人に伝えるのは、今の私では難しいけれど、友達に話してみたりして、少しでも多くの人に知ってもらいたいです。

私が今回の巡礼で、一番心に残っていることは、被爆者証言です。パク・ナムジュさんの話は、とても細かくその時の状況を教えてくださり、自分自身、急に原爆が落とされてきたことを想像することができました。

次に、資料館での印象的なものを書きたいと思います。それは、原子爆弾が投下された後に降ってきた雨が、黒い雨だったことが書かれている詩を読みました。その詩には、あつくて水が欲しかったと書かれていました。この詩の中の水がすぐ飲めなかったし、とてもたえきれない程の暑さだったと思います。

1945年8月6日の空は、その夏一番の暑さになりそうな、雲ひとつない青空だったそう。2017年8月6日朝8時15分の空もすきとおった群青の空だった。その時だけ、うるさかったデモ隊までが静かになった。多分その時まで、広島に来た実感がなかったのだと思う。話を聞いても、説明されても、それが現実の広島と結びつかなかった。でも八月六日の朝の空を見て、それが被爆者証言で聞いた爆発直前の様子のイメージと重なると、「原爆」というものが妙に現実味を帯びてきた。それまで2Dで見ていた映像が、突然、高画質の3D映像に切りかわった感じに。

の巡礼で学んだことを、自分に生かしていきたいです。そのためにも、いつも人に親切にして、何事にも一所懸命に頑張りたいです。今年の巡礼でたくさん学ぶ事があったので、来年も参加したいです。

恐ろしさを知りました。次に、資料館での印象的なものを書きたいと思います。それは、原子爆弾が投下された後に降ってきた雨が、黒い雨だったことが書かれている詩を読みました。その詩には、あつくて水が欲しかったと書かれていました。この詩の中の水がすぐ飲めなかったし、とてもたえきれない程の暑さだったと思います。

西院教会 3年 小林 和貴

河原町教会 2年 落合里咲子

広島平和巡礼

八月六日の空



でも、投下後の広島がどうなったかは、資料からしか分かり得ない。だから、慰霊碑巡りの間も、そのことを考えていた。アメリカ軍が行った「原爆の都市投下実験」に巻

きこまれ、死んだ人は数えきれない。生き延びても、アメリカ軍の実験データとして被験体にされた人も多かったと資料館にあった。120度近いパノラマ写真で見た、投下後の広島は焦土と化していた。人口の半分が死に、インフラも壊滅していた。さらに、広島ของ苦しみは続いた。生き残っても白血病や傷跡による差別は続き、被爆者の生活はなかなか好転しなかった。その間に政府は沖繩を人質に主権を回復した。沖繩の人々が苦しみを担う間に、広島を含む本土は復興した。この苦しみが全て、「戦争を始める」という決断から産まれた。戦いは、欲から生まれた。欲は、進化の道程では必要だった。だが、人間は、過去の間違いから学

ぶ能力があるはずだ。だから、もう二度と戦争をしないという決断は正しいと思う。ただ正しいのではなく、実現可能な目標として、だ。そのためにも、平和巡礼は必要だと思う。見たり、聞いたりしてあまり面白くも気持ちよくもないものもあったが、人類史の負の側面から目を離さないためには必要だと思う。もう一つ、原爆ドームを見ると、いつも感動する。負の遺産を見て感動するのもおかしいが、周りの広島市街そのものが、破壊された状態からここまで復活したことを、堂々と告げてくるからだ。負の遺産として遺された原爆ドームと、正反対に復活した広島市街そのものが、世界中の核と闘う人のシンボルとして、残り続けるのだろうか。いつか世界から核がなくなることを願って。

広島平和巡礼

草津教会 3年 前田 嘉穂

この広島巡礼で私が一番心に残ったことは分かち合いです。中学生会は、毎回分かち合いが難しく、友達や家族についてなど、新しく考えさせられることが

たくさんありました。今回は、広島だけでなく世界中に関係のある「平和」をテーマにしてみんなで意見を発表し合い



ました。「身近な生活の中で自分は平和だと思おうか」という質問に対しては「平和だと思おう」という意見が多かったです。一方で「テレビのニュースでは、テロなどで亡くなっている人がいるから、全体的に見ると平和じゃない」という意見や「平和じゃない暮らしをしたことがないから分らない」という、自分が「なるほど」と納得できる意見もありました。その他に「戦争がなくなったら平和か」という質問では、私にはすごく難しく分かります。しかし、他の意見では「平和じゃない」と思っている人のほうが多かったです。

「平和にするのは何が必要か」という質問について、私は「愛」が必要だと答えました。なぜなら、愛があればどんなことでもできると思っています。世界中のひとと助け合い、協力し、支え合って生きていけると思いました。

この分かち合いで、今までになかった、自分では発想できないような意見が、たくさんできてきてすごくおどろきました。今回はとても難しい分かち合いだったけど、人それぞれ違ったおもしろい意見が聞けて、貴重な体験ができたと思いました。

10月のお知らせ

教 区

聖書委員会 / Tel.075(211)3484 ㊦㊧

聖書講座「聖書で祈る」

日 時：4日㊦ 19:00 5日㊦ 10:30

テーマ：世話をするつとめ

講 師：白浜 満司教(広島教区)

日 時：18日㊦ 19:00 19日㊦ 10:30

テーマ：祈り、とりなすつとめ

講 師：西 経一師(神言会)

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

よく分かる聖書の学び

日 時：11日㊦ 10:30

講 師：北村 善朗師 / 参加費：300円

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

京都教区カトリック正義と平和協議会

現地学習会

日 時：9日㊦ 京都駅 8:30 集合

9:00 出発～15:30 帰着

場 所：丹波マンガン記念館・山国教会

参加費：3,000円(貸切バス代・入館料含む)

定 員：27名(昼食持参、歩きやすい履物)

修 道 会

男子カルメル修道会(宇治修道院)

聖テレーズの黙想(中川 博道師)

日 時：9月30日㊦ 17:00～1日㊦ 16:00

参加費：7,500円

水曜黙想(中川 博道師)

日 時：18日㊦ 10:00～16:00

テーマ：ロザリオを生きる

参加費：3,000円

一般のための黙想(中川 博道師)

日 時：7日㊦ 17:00～8日㊦ 16:00

テーマ：テレーズと共に生きる

参加費：7,500円

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：8日㊦ 14:00 / 22日㊦ 14:00

28日㊦ 18:00 ミサ奉仕後

カトリック会館 6階

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：12日㊦ 10:00 / 26日㊦ 10:00

カトリック会館 6階

子羊会

黙想会

日 時：28日㊦ 10:30～15:30

指 導：小川 靖忠師(心のともしび)

場 所：西院教会

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時：12日㊦ 13:00 カトリック会館 6階

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー、ケーブル)スカイ A
毎週土曜日 朝 7:45

シリーズ「私のキリスト道巡礼記」

出演は橋本 勲師(長崎教区)

ラジオ(KBS京都) ㊦～㊧ 朝 5:55

㊦ 朝 5:15

10月のテーマ「繋がり」

任 命 (9月1日付)

カトリック学校委員会

担当司祭 ウィリアム・セルジュ・パティオノ師

※ 12月号の原稿締切り日は10月25日㊦です。

大塚司教の

10月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 1日㊥ 10:00 三重北部ブロック大会
(海星中学校・高等学校)
- 2日㊥ 14:00 司教顧問会・モデラトール
合同会議
- 3日㊥ 11:00 「求道者に同伴する信徒」
パート2 司教講話
- 5日㊥ 10:00 中央協 常任司教委員会
- 8日㊥ 11:00 彦根教会・アパレシーダの聖母
ポルトガル語ミサ
- 9日㊥-14日㊥ ユスト高山右近
列福答礼公式巡礼(Aコース)
- 16日㊥-20日㊥ ユスト高山右近 列福一年準備
(マニラ)

- 21日㊥ 10:00 希望の家保育園創立50周年記念
- 22日㊥ 10:00 京都北部ブロック大会
(場所未定)
- 23日㊥-27日㊥ 教区司祭 年の黙想
(軽井沢 宣教クララ修道会 黙想の家)
- 29日㊥ 9:00 教区 青年の集い(鈴鹿教会)
- 30日㊥ 13:30 四日市メリノール学院
理事会
- 31日㊥ 14:00 (学法)カトリック京都学園・
京都南カトリック学園 理事会

転居のお知らせ

田中健一名誉司教

転居先：カトリック仁豊野ヴィラ

住 所：〒670-0801 姫路市仁豊野900

YES 2017

『YES』は毎年秋に行われている、青年センターが企画・運営している青年の集いです。

YES とは

Y = Youth

E = Enjoy, Encounter, Exchange, Etc...

S = Space

の略で基本的には京都教区の青年が、一年に一度、気楽に集まろう！ ということで計画されました。2002年から毎年行われており、去年行われた YES 2016 のテーマは『いっくしみ深く、御父のように』で、皆でいっくしみについて分かち合いました。大塚司教様にもお越しいただき、分かち合いの最後には講話もして頂きました。2日目には河原町教会で「いっくしみの門」閉門ミサにも預かりました！

【青年センター-HP】 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

今年も11月11日(土)から12日(日)にかけて一泊二日で分かち合いをします。年に一度のイベントですので奮ってご参加ください！

日 時：11月11日㊥、12日㊥

場 所：西院教会

締切り：10月20日㊥

詳細案内は、各小教区にお送り致します。また、青年センターのホームページ、facebook にも掲載していますので、ご確認下さい。



YES 2016

青年センターあんでな